



病と闘う子どもと家族のサポートハウス

パンダハウス

News Letter

VOL.13 2021年9月号
(年2回 3月、9月発行)

発行

認定特定非営利活動法人 パンダハウスを育てる会 事務局
TEL 024-548-3711
〒960-8157 福島県福島市蓬萊町八丁目15番地1

HP <https://pandahouse.org>
facebook <https://facebook.com/npo.panda.house>
E-mail office@pandahouse.org

HP QRコード



「小児がん医療における パンダハウスの役割」

福島県立医科大学附属病院
小児腫瘍内科 佐野秀樹

この度、菊田敦先生の退官に伴い、福島県立医科大学附属病院小児腫瘍内科部長に就任いたしました。パンダハウスの皆様には日頃よりとてもお世話になっており、本来は直接ご挨拶させていただくべきですが、コロナ禍でなかなか直接ご面会できる機会が作れないためこの場をお借りしてご挨拶させていただきます。

小児がんの患者数は多くないのですが、脳腫瘍、骨軟部肉腫、神経芽腫などの胎児性腫瘍、その他稀な腫瘍や小児期発症の成人がん、および血液腫瘍と多岐に及び、それに対応できる診療体制の構築が不可欠です。がん種毎に関連診療科との緊密な連携と、先端的外科治療、造血細胞移植や放射線治療などの専門的な治療技術の充実およびそれらを組み合わせた集学的治療を必要とするため、福島県内で小児がんの治療が可能な施設は当院に限定されます。小児がんの治療は長期におよび、家庭の中で中心的な役割を担っている母親もしくは父親が病院の

付き添いのために不在となることで、家庭内のバランスが崩れ、残されたご家族、特に患児の「きょうだい」に大きな負担がかかります。小児がんに対するトータルケアにおいては家族ケアという視点が非常に重要ですが、現在のコロナ禍で外泊や面会も制限される状況で、病院での家族のケアの実現は困難です。そのような中、パンダハウスは、病院で提供困難な家族ケアを実践できる貴重な場となっております。特に遠方から入院されている患児は、パンダハウスに「きょうだい」を含めた家族で宿泊することで、外泊後は本当にリフレッシュされ穏やかな顔で帰院してきます。また、死期が近く、退院が難しい患児が残された最後の時間をご家族と静かに過ごすために利用されることもあります。日頃、小児がんの厳しい治療を担当している立場から申し上げますと、ホスピタリティが高く安心して過ごせるパンダハウスの存在は本当にありがたく、かけがえのない存在です。この場を借りてパンダハウスを支えていらっしゃる山本理事長をはじめとして多くのボランティア、サポーターの皆様に感謝申し上げます。

また、最近では部屋数の拡張と相談事業の開始により、ファミリーハウスとしての機能もより充実しております。単なる宿泊施設としてではなく長期入院患者のケアの一端を担う重要な施設としてパンダハウスと今後もよりよい連携を構築していきたいと考えております。コロナ禍で大変な状況かと存じますが、今後ともよろしく願い申し上げます。



パンダハウスの新たな活動

副理事長 古溝陽子

コロナ禍の生活は続いています。利用者さんに安心してハウスで過ごしていただけるよう、感染予防に配慮して活動しています。お子さまが予期せぬ状況となり、突然ハウスを利用せざるを得なくなったご家族がいらっしゃる、家族と自由に会うことが難しい中、ハウスで

家族団らんのひとときを過ごされたりしています。

ハウスに関わってくださる皆さまと共に知恵を絞りながら、福島田沢地域の方のご協力をいただいてバザーを開催したり、オンラインの茶話会を実施したりしています。また、福島県立医科大学附属病院や銀行等のご協力をいただき、お子さまたちに描いてもらった絵で、ロビー等を飾らせていただきます。

想定外の制限のある生活となりましたが、パンダハウスは新しい活動を取り入れて前向きに歩んでいます。どうぞ、今後とも変わらず皆さまからのあたたかいご支援をよろしくお願いいたします。



「病と闘う子どもときょうだいの絵画」 カレンダーをプレゼントしました!

昨年10月から12月に募集した絵が日めくりカレンダーとなって、4月28日(水)東京四谷ロータリークラブ様より贈呈されました。また、4月28日(水)から5月2日(日)までの5日間、コラッセふくしま1階にて展示会を開催しました。

日めくりカレンダーを受け取られた応募者から「ありがとう」との言葉をいただき、ご支援いただきました東京四谷ロータリークラブ様並びに私共も嬉しく思っております。



利用者さんの声

先の見えない入院の中、長期にわたり、滞在・利用させていただき、とても助かっています。病院からも近く、また、住宅地の中にあるので、静かで、安心して過ごすことができているので、隔々までとてもキレイで、心地よいです。パンダハウスのおかげで、娘の面会に毎日通うことができ、限りある大切な時間を、有意義に過ごさせていただいています。

スタッフの皆様や、ボランティアの皆様の温かさに支えていただき、ありがとうございます。感謝しております。本当にありがとうございます。

娘の容態見守りの為、急遽2泊3日で利用させて頂きました。県外からで弟と私では、市内の狭いホテルで待機は無理でしたが、パンダハウスの利用で主人と交代でき、(コロナ禍で面会はできません)娘の近くで無事を祈って見守ることができました。

「お米炊いて食べて下さい」とサポートセンターで言われてびっくり。また、パンダハウスに到着して、たくさんのおもちゃ、絵本、DVD、隣りには公園もあり、家で過ごすようにいられる環境が本当にありがたかったです。「娘が生きていく事に感謝。先生、看護師さん、全てのスタッフの皆さん、パンダハウスに携わっている皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。」

改めて、病氣と闘う為に、家族が元気でいなければと決意ができました。また寄らせて下さい。ありがとうございました。

今回、娘の手術、入院の為にご利用させていただきました。部屋もキッチンもお風呂もトイレも清潔で気持ち良く使わせていただきました。入口に入ってすぐに涼しいのには感激でした。このような施設を利用せずにいられるのが幸せなんですけど…遠方からの通いは本当に大変なので(会津から来ました)とても助かります。利用料金も信じられない位お安く、何だか申し訳ないです…パンダハウスを作ってくれた皆様、管理されている皆様、お疲れ様です。本当にありがとうございました。パンダのバッジ、カバンにつけて帰ります。



ボランティアの声

パンダハウスとの出会いで思うこと

ボランティア 佐藤 重子



パンダハウスのボランティアを始めて5年目になりました。新しく増築をされた年です。その年は、私自身も定年退職を迎えた年でした。その時に、兄からパンダハウスの存在と意義について話を聞き、自分が出来る範囲でボランティア活動をしていこうと思いました。なぜなら、自分自身も癌になり福島医大にお世話になった際、付き添いの方の苦勞や疲勞を患者でありながらも感じていたからです。我が家には、90歳代の義父母がいますので、週1回の清掃のボランティアから始めることにしました。

清掃をしながら、遠方からきている利用者さんにとって、パンダハウスでの生活がどれほど安らぎを与えてくれる場であるかということを実感しました。長期間、他国から医大に入院していたお子さんが外泊許可をいただいて、広いホールを使って、親子でゆったりと遊んでいる姿を見ると、これこそ、パンダハウスのもつ意味かなと改めて感じました。日本語であいさつをしてもらえた時には、ボランティアの我々もほんのりと温かい気持ちになりました。

しかし、昨年春からコロナ感染者の増加によりパンダハウスのボランティア活動にも感染予防対策をしっかりと行うことになり、私自身、県外への往來のため自粛生活で木曜日のボランティアを欠席することも多くなりました。安全を重視することが一番と考えると当然のことと思ながらも事務局の皆様や利用者の皆様に迷惑をかけての活動になってしまいました。

まだまだコロナ禍でのボランティアが続きますが、利用者の皆様が安心して気持ちよく過ごすことができるようにボランティアの一員として活動させていただければと思います。

さらには、研修の機会がある時には、今後も積極的に参加していこうと思います。



「たざわさん'ず」に出店 チャリティーバザーを開催

パンダハウスから200m先で開催の地元野菜直売所駐車場において、毎月第1日曜日(9:00-10:00)パンダハウスチャリティーバザーを開催しています。

野外ではありますが、コロナ禍のため、マスク着用・手指消毒などの感染対策を実施しながらの開催です。お近くにおいでの方はお立ち寄り下さい。



今後の出店予定:

10月3日(日)、11月7日(日)、12月5日(日)

*「たざわさん'ず」とは、福島田沢地域で採れた新鮮な野菜を5月から12月の日曜日に販売している直売所です。



パンダハウスの オンライン茶話会を開催しました



初めての試みですが、5月12日(水)オンラインミーティングツールのZoomを使い「パンダハウスオンライン茶話会」を開催しました。コロナ禍により、対面でのイベントや説明会による広報活動が制限されており有効な活動として今後も続けて行きます。次回開催予定は11月13日(土)10:00~11:00です。

長い間ありがとう、かわいいピアノさん



平成9年(1997)10月「パンダハウス」開所以来、24年間に渡り、ハウスを利用されたお子様やご家族に愛され、見守ってくれたピアノですが、老朽化のためお別れすることとなりました。荒井さんからご贈呈いただいた「かわいいピアノ」は、毎年、調律を行って来ましたが、経年劣化により音程の調整も難しくなり、また脚部も不安定となったためです。ピアノさん本当にありがとうございました。ハウスにピアノの音が聞こえなくなるのがとても残念です。



賛助会員への加入とご寄附のお願い

賛助会員年会費

個人(1口) 3,000円(1口以上)
団体(1口)10,000円(1口以上)

年会費・ 寄附金振込先

郵便為替口座 口座記号番号: 02200-9-110330
加入者名: 認定特定非営利活動法人
パンダハウスを育てる会
※他金融機関から、郵便振替の場合
店名: 二二九(ニニキュウ)店
当座預金 0110330